

## 令和6年度愛媛県市町教育委員会連合会定期総会 教育長祝辞

令和6年7月19日（金）  
レイグラッツェふじ

本日は、令和6年度愛媛県市町教育委員会連合会定期総会が開催されますことを心からお喜び申し上げます。

皆様方には、日頃から本県教育行政の推進に格別の御尽力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、現在我が国は、国際情勢の不安定化や長引く円安による物価の高騰、急速に進む少子化・人口減少など、複数の大きな変動要因に直面し、変化の激しい時代を迎えておりますが、こうした変革の時代にあっても、不測の事態に動じることなく、自分の発想と力で課題を乗り越えられる、「たくましい子どもたち」を育成することが重要であり、県におきましては、「子どもたちのために」、「教職員のために」また、「地域とともに」という方向性を大切にしながら各種施策を展開しているところです。

こうした中、市町の皆様にも連携・協力いただきまして、県独自のCBTシステム「EILS」の利用拡大による、学力の向上と教員の負担軽減をはじめ、小学校から高校までの12年間を通じたキャリア教育の充実を図るほか、「不登校児童生徒への対応」として、校内サポートルームの設置に加え、昨年度、メタバースを活用した学びの場である「メタサポキャンパス」を開設するなど、時代の変化に対応しながら、本県の特色ある取組を推進しております。

こうした取組の効果の一つとして、校内サポートルームにつきましては、昨年度利用した195名のうち、実に約53%の状況が改善するとともに、設置校におきましては、不登校の新規出現率が極めて低い水準に収まるなど、不登校の未然防止にも大きな効果が表れているほか、「メタサポキャンパス」につきましては、登録した中3生8名全員が高校進学を果たすなど、確かな手ごたえを実感しているところであり、各市町におかれ

ましては、今後とも不登校児童生徒が安心して学べる環境づくりに一層の取組をお願いします。

一方で、先般の給特法改正による教職調整額の増額の話題もあって、教員の労働環境や処遇の改善に対する関心が一層高まっておりますが、学校の働き方改革を進めていくためにも、必ず解決しなければならない課題の一つが「部活動改革」であります。

少子化で生徒と教員が減少していく中であって、部活動を健全な形でどう維持していくか、難しい問題ではありますが、教員の負担軽減のため、また、子どもたちの望む選択肢を確保していくためにも、積極的な取組をよろしくお願いします。

また、県では現在、地域に愛され生徒に選ばれ続けるよう、県立学校の魅力化を最大の目的として、「県立学校振興計画」の具体化に取り組んでおりますが、今年度の県立高校入試から新たに「特色入学者選抜制度」を導入することとしています。この制度は、中学生が自身の強みをこれまで以上に柔軟にアピールできる内容となっており、生徒の夢の実現を後押しするとともに、高校側も自校の強みである特色や魅力に一層の磨きをかけることで、生徒から選ばれる学校の魅力化につながるものと考えています。

今後は一層、子供たちが、自分の「良さ」や「可能性」を見出し、主体性を持って高校を選ぶことが重要になります。各市町におかれましては、こうした県の取組に対しまして、引き続き、御理解と御協力をお願いいたします。

終わりに、愛媛県市町教育委員会連合会の益々の御発展と、御出席の皆様方の御健勝、御活躍を心から祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。